

東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

評価結果基本情報

評価年度	令和5年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	アートチャイルドケア株式会社
事業所名称	アートチャイルドケア仙川
評価機関名称	株式会社 ケアシステムズ

コメント

第三者評価を行うにあたり、職員自己評価と保護者アンケートをはじめ、事前資料や訪問調査当日の書類確認など多面的な情報収集に努めた。また、職員からも評価項目ごとにチェックが入れられる評価シートを用い、集計報告書に反映させた。訪問調査では、園内見学、保育場面の見学、経営層・専門職などからのヒヤリングを実施した。第三者性確保については、当評価機関と事業者との間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。

- (内容)
- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
 - II 全体の評価講評
 - III 事業者が特に力を入れている取り組み
 - IV 利用者調査結果
 - V 組織マネジメント項目（カテゴリー 1～5、7、8）
 - VI サービス提供のプロセス項目

Ⅰ 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー 1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）</p> <p>1)「自分らしく」生きていくことができる子ども育てていく 2)子どもの人格を尊重し、子どもたちが本来持っている「生きる力」を育み、何を学ぶかよも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたい 3)子どもを取り巻く社会環境の変化を意識しながら保護者に対して子育て支援を行うとともに、子どもへのあるべき関わりを提案していく 4)保育従事者は、乳幼児の養護と教育の専門家として自ら成長し、保育を楽しむことが出来る環境を整える 5)子どもの「失敗」を受け止める保育を展開していく</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー 5 職員と組織の能力向上）
	<p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員の年齢層が若いが、一人ひとり思い描いている保育があるので、目指す保育を目標に、職員同士話し合う時間を設け最善な保育環境を作り上げることが出来る人材を求めている。また、職員同士でコミュニケーションをとっていき、乳児リーダーと幼児リーダーが職員一人ひとりの役割を決め、その役割の中で円滑に業務をこなせるようになってほしい。そのためにも、施設長が羅針盤となって組織マネジメントをしていかなければならない。</p>
	<p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>保育を学ぼうとする気持ちがとてもつよく、得た知識を基に活動内容を考えている姿がみられ向上心がある。そのため、今後は沢山の研修や他の系列園との連携を図りお互いに良い部分を共有することによってキャリアをアップしていき、より良い保育を行うことが出来るようにして欲しい。</p>

II 全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

1	<p>子ども一人ひとりの発達や個人差を配慮して指導計画を作成している</p> <p>全体的な計画をもとに、年齢別の年間指導計画、月間指導計画（月案）、週指導計画（週案）、日案などを作成している。年間保育目標には、それぞれの年齢に応じて目標・ねらい、そして月齢に応じて各種の日常生活の計画が詳しく表記されている。見直しが必要な時は月案・週案で見直し、計画を立案している。また、保健・食育計画も作成しており、保護者会や運営委員会、個別面談を通じて保護者へ説明して理解を促している。特に子どもの実態を的確に捉え、一人ひとりの発達や個人差を配慮して指導計画を作成することを大切にしている。</p>
2	<p>子どもの発達段階や個性を大切にした保育を行っている</p> <p>少人数という環境の中、一人ひとりの子どもにしっかりと向き合った保育を行うことが可能となっており、「自分らしく」という理念の実践に向けて取り組んでいる。家庭的で安心できる環境づくりを心がけ、それぞれの発達段階に応じて個性を大切にしながら日々の保育を展開しており、子どもたちはルールのある中でも自由楽しく過ごすことができている。保護者アンケートにおいても園の良い点として、「子ども一人ひとりをよく見てくれている」という声が多く聴かれている。</p>
3	<p>「ナンバーワン宣言」によって、園の共通課題に取り組んでいる</p> <p>法人共通の基本方針の中には、保育理念・保育目標・保育方針・アートチャイルドケアの誓い、が明示されており、さらに各園において「ナンバーワン宣言」を独自に取り入れることで、園としての課題に取り組んでいる。昨年度につづき、「コミュニケーションNo. 1」を目標に掲げ、課題としているコミュニケーションを深めることに継続的に力を入れている。目標は法人へ共有するとともに、保護者に対しても掲示やお便り、懇談会を通じて伝えられ、職員全体で共通認識のもとで課題に取り組むことができるように努めている。</p>

さらなる改善が望まれる点

1	<p>アンケート結果などを保護者に分かりやすくフィードバックすることが望まれる</p> <p>日々の登園、降園の際には一言でも子どもの様子を直接伝えるなどのコミュニケーションをとることを心がけている。また、保護者懇談会・個人面談・保育参加などを通じて、保護者に子どもの園での様子を伝える機会とすると共に、家庭での子どもの様子を聴き取り、子どもの情報を共有し保護者との信頼関係構築につながるように配慮している。今回行った保護者アンケートでは、「評価の声」以外にも「改善を期待する声」も聞かれている。改善できる点については、早期に着手し保護者に分かりやすくフィードバックすることが望まれる。</p>
2	<p>小学校教育への円滑な接続に向け、小学校との交流について課題としている</p> <p>幼保小連携懇談会に年長の担任と園長が参加し、情報の共有をしている。年長児の子どもたちが小学校での生活を知る機会として、園では絵本などで小学校生活について伝えている。昨年度は地域の年長児同志の交流や小学校の園庭開放に出かけているが、今年度はまだ実施できていないことを課題としている。交流の機会を得るための今後の取り組みに期待したい。</p>
3	<p>中長期計画と事業計画の連携、明確な実行計画の策定に期待したい</p> <p>法人作成による中長期計画（関東全園共通の3か年経営方針）に基づいて、園では毎年の事業計画を作成している。事業計画には各クラス目標、健康管理、行事予定、食事、安全管理、職員の処遇、業務分担、保護者との連携、地域との連携、などについての取り組みが明示されている。しかしながら、中長期計画との関連性や事業計画の効果的な活用については課題がみられる。一部の分野では担当者の明確化や実行の達成度の確認なども必要とされる。中長期計画と事業計画の連携、明確な実行計画の策定に期待したい。</p>

III 事業者が特に力を入れている取り組み

1	<p>★ 職員と組織能力の向上にむけ、さまざまな取り組みに力を入れている</p> <p>園として職員不足と職員間での保育観の共有が主な課題であるとの認識のもと、その改善にむけて取り組んでおり、職員会議の回数を月に1回から2～3回に増やすなど、職員間のコミュニケーションと理解を深めるための努力をしている。また、役職の明確化を進めることで、各職員の責任と役割をより明確にし、組織全体としての能力向上につなげている。更衣室の目安箱の設置も、職員の声を直接聞き、課題解決に活かすための一環である。これらの取り組みによって、職員と組織の能力向上を目指している。</p>
関連評価項目(組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる)	
2	<p>★ 子どもへの言葉かけについて職員が日常の言動を振り返り注意し合うことにしている</p> <p>子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動などがないように、子どもへの言葉かけについて職員同士が日常の言動を振り返り、お互いの言動などを注意し合っている。園長及び副主任は日常的に保育室に入り保育の様子を見守ることで、職員の言動などを把握するとともに必要に応じて指導を行っている。また、園内研修では、虐待防止マニュアルの読み合わせを行うことにしている。虐待や育児困難家庭などについては早期発見を心がけ、マニュアルに沿って法人や行政、関係機関などと連携をとる体制づくりが整えられている。</p>
関連評価項目(サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している)	
3	<p>★ 睡眠と生活リズム改善に力を入れている</p> <p>アートチャイルドケアでは、専門医と協同で睡眠をはじめとした生活リズムを改善していく取り組みである「眠育」を行っている。園でもこの取り組みに力を入れており、生活リズムを整える必要がある子どもに対して、保護者に説明し協力を得て睡眠の記録をとってもらい、それをもとにアドバイザーの資格を持つ職員から生活習慣の改善についてアドバイスをを行っている。記録を通じて、子どもの睡眠パターンを詳細に分析し、それに基づいたアドバイスやサポートを行うことで、子どもが安定した生活リズムを取り戻せるように援助している。</p>
関連評価項目(子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている)	

IV 利用者調査結果

調査概要

調査対象：調査日現在、本園の全27世帯（利用者総数30名）を調査対象とした。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱い、当園に複数名園児を預けている場合は、一番低年齢の園児に対しての回答とした。

調査方法：アンケート方式
アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を園にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数	30人
利用者家族総数（世帯）	27世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	27人
有効回答者数	21人
回答者割合（%）	77.8%

総括

総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の90.4%が「大変満足」または「満足」と回答し、「不満」が4.8%、「大変不満」が4.8%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜保育サービス＞に関する8設問は4設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの発達への有用性」では、95.2%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「けがや体調不良時の対応」では、95.2%の大変高い満足度が得られている。＜利用者個人の尊重＞に関する3設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「保育内容の説明」では、90.4%の大変高い満足度が得られている。＜不満・要望への対応＞では、「外部の苦情相談窓口の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	20人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.2%、「いいえ」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「たくさんのことを学ばせていただき、日々成長を感じています」、「様々な取り組みをしていただいて、心身ともに成長していると思います」、「心身の発達には全く役立ってない」という声が聞かれた。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	19人	どちらともいえない	1人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「普段自宅ではできないようなことをいろいろやってくださって嬉しいです」、「いつも興味津々に取り組んでいる様子を感じます」、「園の都合で同じ活動ばかり」という声が聞かれた。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	17人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が19.0%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「手作りされていてありがたい」、「家で野菜は食べないですが、園では食べているので、園で栄養をかなり取れていると思っています」、「むせたのであれば水分を取らせて、食べたい物を食べさせてほしい」という声が聞かれた。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	13人	どちらともいえない	7人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
「はい」が61.9%、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が4.8%であった。自由意見では、「戸外遊びでは自然に触れ、四季を体全体で感じさせていただいております。また、一年を通じ子どもが自ら興味を持ち参加し楽しむ行事が行われていると思います」、「可能な限り戸外活動をしてきている」、「この夏の猛暑で屋外活動が難しいのはわかりますが、気候が良くなったので、屋外活動をもっと増やしてほしいと感じます」という声が聞かれた。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	12人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	6人
「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が28.6%であった。自由意見では、「とても助かっており、ありがたく感謝しています」、「突発的に迎えに行けない時がたまに起こりますが、早く延長保育を受け入れていただいています。親も労わっていただけて助かっています」という声が聞かれた。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	13人	どちらともいえない	7人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
「はい」が61.9%、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が4.8%であった。自由意見では、「十分に安全対策をとられていると思います。おかげさまで安心して登園しています」、「様々な工夫がされていると思います」、「ちょっと目を離した時にお友だちとケンカになってしまった、ということが多い気がします」という声が聞かれた。							
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か							

はい	19人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「十分に余裕を持ってわかりやすくお知らせいただき、日程も配慮していただいていると感じます」、「土曜日を中心に設定してもらっています。あらかじめアナウンスがあるので計画も立てやすいです」、「参観後は降園が絶対条件なので、一日休むことがどれだけ大変かわかってほしい」という声が聞かれた。							
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか							
はい	14人	どちらともいえない	5人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が23.8%、「いいえ」が9.5%であった。自由意見では、「メモや連絡帳、お迎えの時間などお話ができるタイミングがたくさんあると感じました」、「小さな悩み事も職員たちと相談して共有できています」、「相談したが適当な返答がなく、預けるのが不安になる」という声が聞かれた。							
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか							
はい	16人	どちらともいえない	3人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が9.5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「いつも整理され清潔に保たれていると感じます」、「いつもきれいにしていると思います」、「夏場の玄関がすごく暑い」という声が聞かれた。							
10. 職員の接遇・態度は適切か							
はい	17人	どちらともいえない	2人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が9.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「職員が子どもの発達に合わせた対応、語りかけをしているのを拝見します。とても素晴らしく良い雰囲気だと思います」、「職員の皆さんがいつも明るく笑顔」、「態度の悪い職員がいる」という声が聞かれた。							
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか							
はい	20人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「子どもの表情や機嫌で少しでも変化を感じたら注視して、連絡もいただけるのでありがたいです」、「こちらの勤務を考慮しながらも、体調優先にしてくれていると思う」、「経営層は信頼できるが、担任はできない」という声が聞かれた。							
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか							
はい	12人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人
「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が28.6%、「無回答・非該当」が14.3%であった。自由意見では、「状況や子どもの感情を詳しく聞いてお伝えしてくださるのでわかりやすいです」、「子ども間での解決を第一に、サポートとして間に入ってくれた」という声が聞かれた。							
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか							
はい	16人	どちらともいえない	2人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が9.5%、「無回答・非該当」が4.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「子ども自身が理解し納得するよう説明し、会話してくださっています」、「いつも優しく接していただいて、毎日、楽しそうに園に通う子どもの姿を見て安心しています」、「まだよくわからない」という声が聞かれた。							
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか							
はい	17人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「大切なことを相談したら、職員でも話し合いをしてくれて、その後の対応にも十分満足し感謝しています」、「不安に思ったことはない」、「他の子どものプライベートなことを喋ってる」という声が聞かれた。							
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか							
はい	19人	どちらともいえない	1人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「いつも適切な対応、丁寧な説明をしてくださりわかりやすいです」、「日頃の様子を配信してくれる」という声が聞かれた。							
16. 利用者の不満や要望は対応されているか							
はい	11人	どちらともいえない	6人	いいえ	1人	無回答・非該当	3人
「はい」が52.3%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が14.3%であった。自由意見では、「不満に思うことはないが、不安に思ったことやわからないことを話す迅速に対応してくれる」、「運営会議で改善の姿勢を示してくれた」、「園の職員は対応してくれると思うが、統括的な組織の人はそうではないと感じることがある」という声が聞かれた。							
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか							
はい	8人	どちらともいえない	6人	いいえ	3人	無回答・非該当	4人
「はい」が38.1%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が14.3%、「無回答・非該当」が19.0%であった。自由意見では、「様々な情報をくださり助かっています」、「園の説明書に記載されている」、「全くない」という声が聞かれた。							

V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			
サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
標準項目2	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
評価項目2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		実施状況
標準項目1	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
標準項目2	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		○
評価項目3	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		実施状況
標準項目1	重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		○
標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○
標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○
講評			
職員や保護者に向けて理念を伝える機会を持ち周知に努めている			
<p>全職員に向けて採用時のオリエンテーション、年間研修を通じて、保育理念と保育目標を明確に伝えている。職員会議前には行動規範唱和を通じて保育理念の浸透に努めている。保護者に対しては、入園説明会やクラス懇談会を通じて年度の園の目標とともに、保育理念が共有されており、子どもたちの保育計画にもこれらが反映されている。また、園玄関には保育理念や保育目標の掲示を行うとともに、お便りでは保育内容をわかりやすく保護者に伝えている。年2回の運営委員会においても定期的に取り上げるようにしている。</p>			
園長は自らの責任と役割を職員に伝え、方向性を示している			
<p>今年度の目標（ナンバーワン宣言）を掲示するとともに会議を通じて園長からビジョンを伝え、自らの役割と責任を職員に示している。園長を中心とする運営体制は組織図上に明示されており、役割分掌表によっても職員に対して役割と責任を明確化し伝えている。年2回の人事考課面談と園長面談に加えて法人マネジャーとの面談も行い、職員の意見の把握に取り組んでおり、風通しの良さが実現されている。しかしながら、職員自己評価では、保育目標の明確さや一貫性について改善の余地があることが示されており、理解を深めるための工夫が期待される。</p>			
重要な案件の検討や決定の手順が定められている			
<p>理事会や役員会、経営会議によって重要な案件の検討と決定が行われるしくみがあり、決定事項は法人マネジャーから各園に伝えられ職員会議や昼礼用紙によって全体へ周知されている。また、決定経緯については施設長会議で説明されている。園ではナンバーワン宣言のような重要な案件は、職員会議で意見を集約し意思決定が行われている。決定後は法人への共有とともに、掲示やお便り、配信、懇談会などを通じて保護者へも伝達されている。</p>			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
評価項目1		事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	実施状況
標準項目1		利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○
標準項目2		事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○
標準項目3		地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○
標準項目4		福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○
標準項目5		事業所の経営状況を把握・検討している	○
標準項目6		把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	実施状況
標準項目1		課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○
標準項目2		中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○
標準項目3		策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○
評価項目2		着実な計画の実行に取り組んでいる	実施状況
標準項目1		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○
標準項目2		計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○
講評			
地域情報や、関係者の意見を取り入れ、外部環境の変化に対応できるよう取り組んでいる			
市の保育課からの情報は職員に回覧し、必要に応じて保護者にも掲示で伝えられている。法人の施設長会議や調布市の園長会議、主任会議への積極的な参加を通じて地域の情報を把握し、現状の理解につなげている。年1回の保護者アンケートや運営委員会前のアンケートを基に、保護者のニーズを把握できるようにしている。また、子どもに関する様々な報道については速やかに職員間で周知を行うとともに関連研修を実施し、職員の意識を高めている。小口や購入品の稟議については園で行い、支出の把握や体制の共有を通じた収支の管理を効果的に行っている。			
法人の策定による共通の3か年経営方針に基づき毎年度の事業計画を作成している			
法人作成による関東全園共通の3か年経営方針に基づき、園内では毎年度の事業計画と事業報告を作成している。経営方針は事務室内に掲示し職員への周知も行われている。年間カリキュラムの作成や月ごとの子どものねらいや目標の設定は、単年度計画の策定において効果的に行われており、子どもたちの様子を踏まえた柔軟なカリキュラム作成によって保育方針の実現にむけて取り組んでいる。一方で、法人による経営方針と園の事業計画との整合性については、検証が必要な点が見られるため、連携をより強化することが望まれる。			
計画推進にあたり、進捗状況を定期的に確認しながら取り組んでいる			
日々の記録や月次の自己評価表の作成、子どもの様子に着目した目標設定は、具体的かつ効果的に実施されている。全体会議では進捗状況を確認し、振り返りと見直しに定期的に取り組んでいる。一方で、事業計画においては、ナンバーワン宣言を取り入れて園の目標達成にむけて取り組んでいるが、中長期計画との連携や体系的な活用には課題がみられる。特に栄養・保健以外の分野においては、計画の実効性を高めるため、担当者の明確化や達成度の評価などを行うことが必要とされる。			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
	評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○
	標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
	評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	実施状況
	標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○
	標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○
	評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	実施状況
	標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○
	標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
	評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○
	標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○
	評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○
	標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○
	標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○
講評			
法・規範・倫理の周知と遵守に向けて、多様な方法で職員への指導と支援を実施している			
<p>法・規範・倫理の周知と遵守に関して、園長による定期的な面談での指導、職員の意見箱設置、マニュアルに基づく保育実施と職員会議での討議、守秘義務や園規定に関する園内研修など、多角的な取り組みが行われている。特に、入職時の法人と園長双方からの説明、就業規則や個人情報保護取扱規程、各種マニュアルの事務室常備により、職員が必要な情報にアクセスし、適切に行動するための環境を整えている。匿名の意見箱は、職員の意見を収集し、実情に基づいた改善につなげる効果的な手段となっていることがうかがえる。</p>			
利用者の声の迅速な把握と対応体制の整備、虐待防止に向けた取り組みが行われている			
<p>意見、要望、苦情の解決プロセスは法人と園で明確に定められており、利用者には重要事項説明書を通じて苦情相談窓口が明示されている。さらに、法人につながる苦情解決の連絡先を掲示し伝えている。虐待防止に関しては、園内研修を実施し、職員だけでなく派遣職員も受講してもらうことで、認識の均一化と対応能力の向上を図っている。子どもの日常の観察や身体の傷の確認、家庭でのケガに関する情報共有は、虐待の早期発見と対応に重要な役割を果たしている。</p>			
地域交流拡充と第三者評価の公表により、透明性と地域貢献に取り組んでいる			
<p>ホームページに苦情対応ページを設置し、地域との透明な関係構築に努めている。ハロウィーンイベントなど地域交流活動の拡充、町内会イベントへの参加、中学生の職場体験受け入れなどにより、多様な年代との触れ合いを実現している。調布市園長会や運営委員会への積極的参加によっても、地域ニーズへの応答と地域貢献への取り組みを示している。外部の第三者委員を交えた運営委員会の開催や、第三者評価の受審結果の公表によって透明性の向上に取り組んでいる。</p>			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー4 リスクマネジメント			
サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
評価項目1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		○
標準項目2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		○
標準項目3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している		○
標準項目4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		○
標準項目5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		○
サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評価項目1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		実施状況
標準項目1	情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている		○
標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している		○
標準項目3	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		○
標準項目4	事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		○
講評			
マニュアルに基づく対応、ヒヤリハットにより、リスクマネジメントに取り組んでいる <p>自然災害や火災リスクへの対策として、避難訓練の実施と出火元の位置想定に基づいた出入り口の利用、さらに商店街における散歩中の工事や不審者への注意策定など、具体的なリスク回避措置が講じられている。マニュアルやガイドラインを活用した対策の策定、ヒヤリハット記録の共有と検証は、リスクへの意識を高め、対応能力を向上させるためには大切な過程である。保育指標（マニュアル集）の常備と緊急時の役割分担の掲示、事故報告や軽傷報告書の活用により、職員がリスクを正しく理解し、適切に対処する体制が整っている。</p>			
BCPの見直しと職員間の共有、状況設定による訓練で、対応能力向上に努めている <p>BCPIは法人と保育課のフォーマットに基づいて園特有の内容を盛り込み策定されており、3か月ごとの振り返りを通じて見直しを行っている。概要の説明と配置による周知、参集計画の用意によって、緊急時の対応計画を職員が理解できるようにしている。訓練後の職員間での話し合いやマニュアルにない事柄の共有は、災害時の具体的な対応を深めるために重要となっている。系列園共通の保育指標（マニュアル集）には危機管理マニュアルが整備されており、避難訓練は月1回、異なる事態・状況を想定して実施されている。</p>			
情報管理の徹底と透明性の向上に効果的な取り組みを行っている <p>個人情報の保管は鍵付きキャビネットを利用し、事務室内での使用に限定している。パソコン利用も事務所内で行い、デジタル情報のセキュリティを強化している。職員には個人情報保護と守秘義務の研修を実施し、全員が守秘義務の誓約書を提出している。保護者への個人情報取り扱いの注意事項は園の玄関への掲示としおりに明記し、子どもの写真使用については保護者の承諾を得ている。これらの対応によって、情報管理の透明性とセキュリティを高めている。</p>			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
	評価項目1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	実施状況
	標準項目1	事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○
	標準項目2	事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○
	評価項目2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	実施状況
	標準項目1	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○
	標準項目2	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○
	評価項目3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○
	標準項目2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○
	標準項目3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○
	標準項目4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○
	評価項目4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金・昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○
	標準項目2	就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○
	標準項目3	職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○
	標準項目4	職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○
サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる			
	評価項目1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○
	標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○
	標準項目3	目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○
講評			
園の状況を踏まえながら人材育成に取り組んでいる			
<p>定期的に面談などで職員の思いを聞くようにしており、園内の配置などを検討している。研修や他園との連携によるキャリアアップも積極的に行われており、全体としての人材育成と保育の質の向上に努めている。乳児リーダーと幼児リーダーは、各職員の役割を明確にし、円滑な業務遂行を目指している。職員の不足と保育観の共有不足という課題を認識しており、保育目標や役職の明確化と職員会議の頻度増加などの改善策を実施している。若い職員層を中心に各自の保育観を共有する機会を設け、共通理解をすすめている。</p>			
職員のサポートとキャリアパス構築によって、定着と意欲向上に取り組んでいる			
<p>職員自己評価では、特に女性職員のサポートと給与改善などについて指摘されており、これに対する改善策が実施されている。職員の定着は、経営層との良好なコミュニケーションにより進展しているとのことである。園内研修では、園長や副主任が講師となり、各分野についての研修を実施している。職員は自己評価表を基に研修計画を立て、キャリアアップ研修につなげている。職員一人ひとりが役割を持ち、保育を行い、役割の明確化を通じて業務の安定と昇給を実現している。残業や書類の削減により、働きやすさの改善に取り組んでいる。</p>			
環境の改善、職員間のコミュニケーション強化などチームワークの促進に取り組んでいる			
<p>職員間の話し合いを促進するため、園内研修や乳幼児会議を積極的に行っている。研修の周知方法を改善し、職員の希望に基づく研修の提供が進んでいる。休憩室を1箇所に集約することで、職員間のコミュニケーション機会を増やし、チームワークの向上と離職減少に取り組んでいる。様々な研修の提供により、キャリアアップと組織内研修が充実し、クラス会議や全体会議を通じて子どもの様子の共有も適切に行われている。課題の明確化と職員全体の意識向上が図られており、チームとしての保育に向けた取り組みが行われている。</p>			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー7 事業所の重要課題に対する組織的な活動			
サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
	評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	<p>前年度の評価を受け、保育園では保護者との連携強化を目指し、具体的な施策を実施している。これまで年に2回に限られていた保育参観や保育参加、誕生会を毎月実施することにした。この変更は、保育園として保護者とのコミュニケーションを強化し、保育に対する理解を深めるためのものである。保護者は「パパママ保育」として直接保育に参加し、自分の子どもだけでなくクラス全体の子どもたちと交流する機会を得ている。これにより、保護者は保育園での子どもたちの様子やクラスの雰囲気より深く理解し、保育への関心を高めることができるようになってきている。</p> <p>この取り組みの背景には、保護者からの要望があり、保育園の活動にもっと参加し、子どもたちの保育環境を直接知りたいという願いがある。保育園は保護者が仕事の都合をつけやすいような柔軟なスケジュールを設定し、オープンで信頼できる保育環境の実現を目指している。このような取り組みを通じて、保護者との信頼関係を築き、組織力の向上に努めていると考えられる。</p>	
	評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
		取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
		検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
<p>【講評】</p> <p>保護者支援では、面談の回数を増やし、登園や降園時に子どもの様子を丁寧に伝えることで、家庭と保育施設の連携が強化されている。これにより、保護者からの積極的な発信が増え、子育ての悩みや家庭での子どもの様子についての情報共有が進んでいる。地域交流に関しては、ハロウィン会の開催を通じて商店街の方々との協力関係を築き、子どもたちが地域住民と積極的に交流するようになった。この結果、子どもたちの挨拶が活発になり、地域住民との関係が昨年よりも強化されている。</p> <p>保育園に対する年間の満足度アンケートでは、保護者からの肯定的な反応が多く寄せられているが、一部保護者からは面談の内容や表現方法に対する意見も報告されている。これを受けて、職員間でのコミュニケーション方法の見直しと、第三者を交えた情報伝達の強化が行われている。</p> <p>保護者の参加が難しい場合もあり、今後は保護者が参加しやすいような計画の立案と通知、地域イベントの増加により、さらなるコミュニケーションの向上と地域密着の園運営を目指している。</p>			
	評価項目2	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	<p>前年度の職員の入退職を受けて、新たに異動してきた職員や他園での経験を持つ職員がいるため、保育観を同じ方向性に向けるための基盤作りを目標としている。職員会議では、シーン別（例えば園外保育や食事提供など）のマニュアルの読み合わせを行い、基本的なルールを共有している。最低限のルールを共有した上で、子どもたちがのびのびと遊べるようにするための乳児・幼児会議や保育室の環境見直し会議、クラスごとの遊び環境について話し合いを行っている。これらの活動によって組織としての一体感と保育の質の向上を目指している。</p>	
	評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
		取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
		検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
<p>【講評】</p> <p>様々なグループでの議論を通じて、職員が全体場で発言しやすくなる環境が整っている。職員からの積極的な提案が増え、主体的に関わろうとする姿勢が見られるようになってきている。園長面談と法人マネージャー面談を行い、個々の職員が自身の課題を自覚し、目標に向かって行動する姿が見られるが、一方で解決すべき課題も残っている。</p> <p>職員体制の変更に伴い、長年勤務している職員が暗黙の了解で従来のルールを続けている状況があったが、新しい職員の意見を取り入れることで、新たな視点から保育の見直しと改善が進んでいる。今後は、各職員がリーダーとして発案し、形にしていくことで、共有の理念を心に持ちつつ、それぞれの特色を活かした保育を目指している。</p>			

VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー 6）

カテゴリー 6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
	評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/>
	標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/>
	標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/>
講評			
各種の媒体を通じて入園を希望する保護者などへ情報提供に取り組んでいる			
<p>入園を希望する保護者などへの情報提供は、ホームページやパンフレットを中心になされている。法人ホームページから園のページに移れるようになっており、交通アクセスが優れている立地条件に関するコメントをはじめ、保育の様子などを分かり易く伝えている。パンフレットには、所在地や開園時間などの基本事項に加え、保育理念、保育目標、デイリープログラム、行事などを掲載して、園の概要が伝わるようにしている。入口エントランスにも園の紹介がなされ、園見学などの説明資料としても役立てている。</p>			
ホームページの情報内容については、さらなる工夫を検討されたい			
<p>在籍園児数などの運営情報を市の担当課に毎月報告しており、期中に「空き」が生じた際には、適宜入園希望者を受け入れられるようにしている。また、市の担当窓口には園のパンフレットを提供したり、調布市民間保育所園長会や幼保小連携懇談会などへ園長が出席して、地域の動向などを把握して園運営にフィードバックすることにも取り組んでいる。また、園のパンフレットやホームページなどによって情報提供に取り組んでいるが、ホームページの情報内容については、「Webサイトならではの情報を発信する」などの工夫が望まれる。</p>			
園見学は希望に沿って個別対応としている			
<p>入園を希望する保護者の園見学は9～10月に集中しており、園長や副主任が個別に対応することになっている。また、見学者の情報収集ルートは市役所からの紹介が多く、市への情報提供が重要なことがうかがえる。基本的には電話で受け付け、1回約30分程度で10時からと15時からの1日2回実施している。感染症対策を重視しながら園内を見学してもらうことにしており、「少人数制」、「駅に近い好立地条件」、「異年齢保育に力を入れている」、「保護者負担の軽減に力を入れている」など、園のセールスポイントなども説明し理解を促している。</p>			

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1		サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
標準項目1		サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/>
標準項目2		サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/>
標準項目3		サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/>
評価項目2		サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1		サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/>
標準項目2		利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/>
標準項目3		サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/>
講評			
入園前に面談を実施し園での生活や重要事項について説明を行っている			
入園が内定した保護者には必要書類を園まで取りに来てもらい、入園説明会や個別面談、検診などスケジュールを打ち合わせることにしている。概ね2月中には実施しており、全体としては1時間30分程度の時間としている。重要事項説明書に記載の全ての内容を主に園長が保護者の理解を確認しながら丁寧に説明することを心がけている。延長保育や食事、発熱、感染症などに関する保育に必要な情報を共有し、保護者の質問にも対応している。保護者が記載した「児童票」をもとに家庭での生活リズムなどを聞きながら、保育に役立っている。			
子どもが安心して園生活がスタートできるように「慣らし保育」を実践している			
子どもの成長歴、保育歴、年齢や保護者の就労状況を考慮したうえで、保護者と相談しながら「慣らし保育」を実践している。面談時に確認した子どもの様子や家庭での保育状況などを鑑み、1時間程からスタートし、徐々に園での生活時間を伸ばし、概ね1週間から2週間程度を目安に、通常の保育時間に対応できるようにしている。毎日の受け入れから食事・睡眠・排せつなどを、同じ保育者が担当することで子どもが安心して過ごし、不安やストレスが軽減されるように支援している。さらに、登園や降園時には詳しく生活の状況を伝え、連携を図っている。			
転園や卒園児に寄り添った沿った対応に努めている			
引っ越しなどの理由によって、転園するケースが年1～2名いることが報告されている。その際には園での製作物をまとめ1人ひとりに渡すようにしている。また、必要に応じて園長、担任などが転園先と連絡を取り合い、丁寧に申し送ることで、環境や保育内容の変化を最小限に留められるように配慮している。卒園については、概ね地域の小学校2～3校に進学するケースが多く、毎年2月頃には年長児の保護者と小学校の先生が面談する機会を設けている。また、午睡については1月頃より時間を短縮して、進学準備の一環としている。			

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1		定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
標準項目1		子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/>
標準項目2		子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/>
標準項目3		アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/>
評価項目2		全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
標準項目1		指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/>
標準項目2		指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/>
標準項目3		個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/>
標準項目4		指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/>
標準項目5		指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	<input type="radio"/>
評価項目3		子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している	実施状況
標準項目1		子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/>
標準項目2		指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/>
評価項目4		子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
標準項目1		指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/>
標準項目2		子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/>
標準項目3		子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/>
講評			
子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定めている			
保育に必要となる子どもの心身状況や生活状況などは、法人各園共通の書式が準備されており、入園前に保護者に配付し記入のうえ提出を依頼している。家庭調査表をはじめ、児童票、健康チェック表、病歴と予防摂取の状況など法人として取り決めた各種の書式に記入してもらうことで、子ども一人ひとりの状況を把握して、個別のファイルにまとめ保管している。さらに、個人面談での保護者からの要望などは個人面談票に記録し、定期的に個々の課題や保育の配慮を追って児童票にまとめている。			
指導計画に基づいた活動内容を懇談会やクラスだよりで丁寧に伝えている			
法人の理念に基づく「全体的な計画」を踏まえて年間指導計画を作成し、月間指導計画と週・日案の作成につなげている。保護者に対しては入園時の説明会で個人面談をし、年度初めの保護者懇談会で指導計画の内容や年齢に応じた子どもの発達の様子についての説明を行い、毎月のクラスだよりによって各クラスのねらいを活動の様子を伝えている。さらに、日、週、月それぞれにおいて環境設定に配慮し、子どもの姿から「翌日や次週のねらい」につなげられるようにしている。また、個人差を配慮して指導計画を作成することを大切にしている。			
子ども一人ひとりの発育状況は、各種の記録によって詳しく把握している			
子ども一人ひとりの発育状況は、児童票や面談記録、連絡帳、健康記録などによって詳しく把握している。指導計画に沿った具体的な保育など個別記録などは、職員全体会議で話し合いの時間を設け共有することで、全職員が共通理解のもとで保育にあたれるようにしている。なお、日々の昼礼をはじめ、職員全体会議や給食会議は月1回以上開催して職員間の情報共有に取り組んでいる。変化が見受けられた際には、昼礼時に共有したり、必要に応じて園長や副主任に報告して共有を図り、ケースごとに対応できるようにしている。			

サブカテゴリー4 サービスの実施			
評価項目1		子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
	標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
	標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○
	標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
	標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
	標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
	標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○

講評

子どもが主体的に活動できるような環境づくりに取り組んでいる

保育室は各年齢に合わせた玩具や絵本を、手に取りやすい高さの棚にわかりやすく並べ、片付けにも取り組みやすくしている。乳児は年齢ごとに過ごし、食事や昼寝に入るタイミングは個々の生活リズムに合わせて一斉にならないように配慮している。幼児クラスは合同保育を行っており、室内遊びや散歩なども一緒に過ごしているが、食事はテーブルや椅子の高さに配慮し年齢別に行っている。遊びのコーナーや落ち着けるスペースづくりなど、クラス会議を行い保育室のレイアウトを考えており、環境づくりに継続的に取り組んでいる。

法人が設置している発達の相談窓口を利用し援助の仕方を学んでいる

2か月に1回の巡回相談や法人が設置している発達の相談窓口を通じて、子どもの日々の様子を専門家に見てもらい、保育時の援助の仕方について相談しており、外部の専門家との連携により、子ども一人ひとりに適した支援に努めている。個別指導計画を設けていないものの、個人記録に活動や支援の内容を記載し、昼礼や会議、クラスカンファレンスを通じて情報を共有し、アドバイスを交換している。クラス保育においては子どもの気持ちに寄り添い、仲立ちしながら仲良く遊べるように援助している。

子ども同士のトラブルに際しては気持ちを尊重した対応に努めている

発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、年齢に応じた対応に努めている。乳児は気持ちを受け止めながら仲立ちし、未然に防ぐことができるように配置にも工夫をしている。幼児に対しては言葉で伝え、お互いの話を聞いて納得できるように促している。また、子ども同士で解決できる場合もあるため、その場合は見守るようにしている。必要に応じて、お迎えの際に保護者にも状況を説明し、子どもの思いに寄り添ってもらえるようにしている。ケガをしてしまった際には担任が残り、お詫びとともに保護者に説明をしている。

評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
	標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
	標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
	標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
	標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

講評

申し送り表を利用し、日々の子どもの状況を把握できるようにしている

登園時は連絡帳の提出とともに口頭でも子どもの様子について保護者に確認している。保護者から伝えられた子どもの健康状態、お迎え時間の変更などの情報は申し送り表に記載している。乳児は保護者への伝達事項も申し送り表を利用している。乳児は日課表を用いて、遊びや健康、生活の様子を詳細に記載し、お迎え時に保護者に伝えるようにしている。さらに連絡帳とコドモンアプリを通じて乳児クラスの子どもの様子や活動内容を伝え、写真も毎日掲載している。連絡帳は、コドモンアプリに移行することを検討中である。

子どもの発達に合わせて基本的な生活習慣が身につくよう援助している

朝の受け入れを廊下で行い、その際に荷物も受け取り担任が準備をしている。乳児クラスでは、着替えや食事、排せつなどの状況は連絡帳や口頭で保護者に伝えられており、年齢や月齢だけでなく一人ひとりの興味や発達に応じて、家庭と園での姿について伝えあいながら、個別に取り組んでいる。幼児は自分で朝や帰りの支度、着替えなども出来るようになっており、3歳からの当番活動では、朝の会や帰りの会の進行、人前での発表、楽しかったことの共有、食事の準備や後片付けなどにも取り組んでいる。

休息時間は子どもの状況に合わせた対応に取り組んでいる

子どもの年齢に応じて、昼食後は昼寝時間を設けており、睡眠時間が短い子どもに対しては絵本を読んで静かに過ごすように促している。年長児は就学にむけた取り組みとして、年明けから昼寝時間をなくしているので、早めに起きてしまった場合には、年長児クラスで一緒に過ごすなどの対応をしている。また、体調や活動内容によって休息が必要な場合には、年齢に関わらず休息できるように配慮をしている。乳児は一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、短い時間でも休むなどの対応により体調を整えるようにしている。

	評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
	標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/>
	標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/>
	標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/>
	標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/>
	標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/>
	標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/>

講評**子どもたちが自由に表現活動を楽しめるように援助している**

月に1回外部講師による体操教室が実施されており、身体を動かす楽しさとともに、子どもたちの基本的な運動能力の向上を促している。また、日々行われるリトミックでは、音楽を通じての表現力やリズム感を育てることができるように援助している。製作活動では、子どもたちが楽しく表現できるように意識し、様々な素材を豊富に用意することで、遊びから自然に創作活動へと移行できるように配慮している。幼児は一人ひとりのお道具箱があり、のり、クレヨン、色鉛筆、粘土などが備えられ、いつでも自由に使えるようになっている。

戸外活動を多く取り入れ、子どもが季節や自然を感じることができるように援助している

午前中は積極的に戸外へ出かけ、子どもたちが自然との触れ合いや身体を動かす喜びを体験できるようにしている。夏に室内でも水遊びや感触遊びを取り入れ、秋には落ち葉やドングリを集めなどで季節を感じられるように工夫し、自然への興味や親しみを育むことができるように援助している。スペースの制約により栽培活動ができていないことや、お芋掘り、遠足などに行けていないことは課題としており、遠足については再開を検討中である。

生活や遊びを通して、ルールに気づき大切さを学べるように配慮している

生活の中できまりに気づく機会を提供し、友だちの思いを理解し、どのように感じるかを想像できるよう、その大切さとともに伝えている。ルールのある遊びを通じて具体的な実践に取り組んでおり、リサイクル工作や集団遊びでは楽しむだけでなく、友だちとの協力や順番を待つことの大切さを学べるように配慮している。遊び前の約束や安全な遊び方についても伝えており、必要な場面に応じて子どもたちが自分の感情を調整できるように、適切な言葉をかけるように努めている。

	評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
	標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/>
	標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/>
	標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/>

講評**子どもたちが協力し達成感を味わうことができるような行事を開催している**

運動会、発表会、夏祭りなどの保護者参加行事は、今年から人数規制を設けずに実施され、運動会は地域の児童館で開催することができた。乳児と幼児の部に分けて行われ、乳児は親子で楽しむ競技、2歳児からはかけっこやパラバルーンの活動を共に体験している。幼児にはかけっこや組体操、親子競技が用意され、日頃の遊びを取り入れたプログラムが組み込まれている。子どもたちは朝の会での話し合いや共同作業を経験し、協力することの大切さや集団で目標に向かう喜びを体験することができている。

季節の行事では子どもが興味を持って取り組めるように工夫をしている

季節の行事を通じて、子どもたちが文化や伝統に触れることができるように計画している。節分では豆まき用の鬼のお面作りを通して、節分の意味を学べるようにしたり、クリスマス、子どもの日、七夕、ハロウィンなどの行事では、それぞれの季節感を感じることができる製作活動や集いが行われ、年間を通じて楽しみながら学べる環境が整っている。書初めの活動では、お手本を参考にしながら練習に取り組み、子どもたちが自分の目標や頑張りたいことを自由に表現することができおり、掲示によって振り返りもできるようにしている。

行事予定や取り組みの様子を伝え、わかりやすい情報提供に努めている

行事のねらいや子どもたちの準備、取り組みの様子などを保護者に丁寧に伝えることで、理解や協力を得られるように努めている。年度初めに年間行事予定を伝え、運動会など保護者参加の行事に際しては、お手紙を配付するなどわかりやすい情報提供を心がけている。園だよりやクラスだよりの配信などによっても行事内容や取り組みの様子などを保護者に伝えている。加えて、保護者からのフィードバックをコドモンで収集し、職員会議での共有を通じて園の運営や行事の改善につなげている。

	評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
	標準項目1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/>
	標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/>
講評			
保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるよう配慮をしている			
現時点では延長保育を利用する家庭は少ないが、スポット利用も受け入れており、保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるよう、月齢に合わせて延長保育用の部屋を設けている。また、希望によって補食や夕食も提供できるようにしている。延長保育時間では人数が少なくなることで、寂しさを感じないように子どもの好きな遊びや絵本を読んだり、スキンシップを図ったりしながら、子どもに向き合うようにしている。			
子どもに関する情報の申し送りをを行い、適切に対応できるように努めている			
子ども一人ひとりの日中の様子については、乳児は日課表、幼児は申し送り表にそれぞれ記載しており、口頭でも申し送りをを行い、担任以外の職員も保護者に適切に伝達できるように取り組んでいる。クラスの様子については各クラスの担任からコドモン配信によって伝えている。また、お迎えの際に保護者からの連絡事項などがあれば、日課表、申し送り表にそれぞれ記載し、翌日担任が確認して対応できるようにしている。			
	評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
	標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/>
	標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/>
	標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	<input type="radio"/>
	標準項目5	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/>
講評			
子どもが楽しく落ち着いて食事をとれるような雰囲気づくりに配慮している			
子どもたちが楽しく、落ち着いて食事を取れるような雰囲気作りに配慮しており、お当番活動を取り入れて、メニューを読み上げたり、子どもたちの様子に合わせて席の配置を変えたりなどの工夫をしている。離乳食では、月齢だけでなく一人ひとりの発達や食べている様子を確認しながら、無理のないよう段階をすすめている。苦手なものは少しずつ食べて増やしていき満足感を得られるよう工夫している。栄養士は子どもたちとコミュニケーションを図り、好きな献立など希望も聞くようにしており、子どもたちの声をクッキングなどにも取り入れている。			
栄養士を中心に、年齢ごとに毎月の食育活動に取り組んでいる			
献立は法人で作成されており、行事食、郷土料理、誕生日会メニューなどを毎月の献立に取り入れ2週サイクルでの提供をしている。栄養士は法人での給食会議に出席して他園との情報共有に努め、園では毎月、子どもたちの喫食状況や必要な食具、食育などについて細かく情報共有している。食育では、食材を見せたり、野菜の皮むき、野菜スタンプ作り、災害時の備蓄食品を食べる機会など、年齢に応じて様々な体験ができるようにしており、食育活動の取り組みにより、子どもたちの食への関心が深まるように援助している。			
食育の様子などを保護者に伝え、食に関して家庭との連携に努めている			
誕生日会は午後のおやつ時間に行っており、保護者にも参加してもらい一緒にケーキを食べてお祝いし楽しく過ごせるよう配慮している。離乳食では、子どもの食事の進み具合について保護者と相談しながら進めており、家庭の様子などは担任が確認を行っている。また、必要があれば家庭での食事の様子を動画で見せてもらい、子どもの状況を共有して適切な食事提供ができるように努めている。食育での取り組みの様子はコドモンで写真なども配信して保護者に伝え、法人からの食育だよりも配信されている。			

	評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
	標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/>
	標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	<input type="radio"/>

講評**年間保健計画に基づき子どもの健康管理や健康教育に取り組んでいる**

各クラスにおいて子どもたちの健康管理に取り組んでおり、朝の受け入れ時に体調確認を行い、変化があれば報告している。子どもたちへの健康教育は、年間保健計画に沿って担任が行っており、乳児からの手洗い指導、幼児には水分補給や熱中症について、水遊びの安全指導などを実施している。健康に関する絵本の読み聞かせや、交通安全のルールについても伝えている。また、歯科衛生士による歯磨き指導も実施している。

嘱託医と連携しながらケガなどの対応に努めている

嘱託医による内科健診、歯科検診を定期的に行い、その際には最近流行っている感染症の話や予防についての申し送りがある。医療的ケアが必要な園児は在籍していないが、保育中の発熱やケガなどに際しては、園長または主任が対応し、通院が必要な場合は保護者に連絡を行い、かかりつけ医もしくは嘱託医まで職員が引率する体制である。園内で感染症が発生した場合にはマニュアルに沿った対応に努め、配信によって保護者に伝え、症状や登園の目安について掲示を行っている。

保護者と連携をとりながら、子どもの健康管理に取り組んでいる

子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）については、入園時に保護者に説明を行っている。また、法人で作成している保健だよりを基盤に園では園長が作成し、ケガや感染症などについて記載して保護者に伝えている。子どもの健康などについて相談がある場合には、連絡帳で伝えてもらうようにしており、健診時には嘱託医に相談し回答を得られるようにしている。

	評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/>
	標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/>
	標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/>
	標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/>
	標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/>

講評**保護者の急な延長保育の依頼にも柔軟に対応している**

保護者の就労など個々の事情の把握に努めており、延長保育や補食（夕食）などへの対応を行っている。保護者の都合により急遽延長保育を依頼される場合にも対応している。また、登降園時にはできるかぎり保護者と会話の時間を持つようにしており、子どもの状況を共有するとともに、保護者とのコミュニケーションも図れるように努めている。今回行った保護者アンケートの延長保育に関する設問の自由意見欄には、「急な残業時の対応について、とても助かっている」や「快く延長保育を受け入れてもらっている」な評価の声が複数聞かれている。

保護者会や行事において保護者同士が交流できるように支援している

保護者懇談会は年2回実施している。年度初めは1年間の見通しと集団生活に対する理解が得られるように、保育目標、年間指導計画、クラス保育目標、誕生会保育参加などについて具体的にわかりやすく伝えるように努めており、保護者からの質問にも応じている。また、保護者同士が交流できる機会として懇談の時間も設け、園での子どもの様子や育児の悩みなどについて共有したり話し合ったりできるようにしている。保育参加や保護者が参加できる行事（夏祭り、運動会、発表会など）でも保護者同士がクラスを超えてつながりを持てるように支援している。

子どもの様子や成長を保護者に伝え共有することで信頼を築けるように努めている

保護者からの連絡事項は職員間で共有するだけでなく、事柄によっては職員全体会議などで検討し周知している。その日の子どもの様子や成長を保護者に直接伝えることが信頼関係構築には大切だとしており、保護者への声かけに取り組んでいる。運営委員会を年2回開催し、行事の際やCSアンケートなどを行うなど、保護者の考えを聴く機会を設けている。アンケートについては保護者懇談会や運営委員会でフィードバックすることになっている。

	評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
	標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<div></div>
	標準項目2	園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<div></div>
講評			
<p>地域の資源を利用し様々な体験の機会を確保している</p> <p>近隣にある5か所ほどの公園では、年齢や活動内容に応じて戸外遊びなど様々な体験をすることができている。また、公園で地域の子どもやほかの園児と触れ合うこともあり、様々な体験や交流の機会になっている。近隣保育所の園庭開放へ参加して交流する機会を設けたり、児童館で開催されている子育て広場への参加など、近隣の保育園とも交流する機会も設けている。駅に使い商店街に位置している立地条件を活かして、近隣の店舗に教材となる資源（段ボール）の譲渡を依頼したり、ハロウィンでは商店街協力のもと仮装散歩の機会なども設けている。</p>			
<p>職員以外の地域の人々と触れ合う機会を充実させることを目指している。</p> <p>散歩などでは日常的に地域の方とあいさつを交わすなど、社会性を身に着ける機会としたり、地域の商店に協力をお願いすることで園の職員以外の地域の人々と触れ合う機会になっており、関係づくりはできている。さらに、調布市中学生の職場体験を受け入れたり、読売巨人軍主催のダンス教室に参加するなど、地域の保育施設を対象にした地域事業に参加している。また、消防士や警察官などの地域の方と触れ合う機会も設けている。</p>			

サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1		子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
標準項目1		子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/>
標準項目2		子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/>
評価項目2		サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
標準項目1		日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/>
標準項目2		子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/>
標準項目3		虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/>
講評			
個人情報の取り扱いについては入園時に説明して周知を図っている			
入園説明会や個人面談では、個人情報の取り扱いについて重要事項説明書において、子どもや保護者の個人情報の取り扱い方や具体的な利用目的を明示している。さらに、第三者委員や行政の連絡が記載された苦情窓口も掲載されており、意見や要望の伝え先も明示している。行事などにおいても静止画や動画撮影についてルールを設けている。今回行った保護者アンケートの「プライバシーへの配慮」や「子どもや保護者の気持ちの尊重」など、尊厳の尊重に関する設問については、高い満足度が聞かれており、適切な対応がなされていることがうかがえる。			
子ども一人ひとりを尊重した保育を心がけている			
日常において子ども一人ひとりの価値観や生活習慣を尊重した保育を心がけており、入園前面談の際に詳細に聞き取ることで、保護者が大切にしていることの把握に努め、個別に配慮した保育を行うようにしている。子どもの名前を呼び捨てにしないことや、声かけ、声の大きさなどにも配慮している。オムツ替えや鼻をふく場合などにも必ず声をかけ、確認しながら対応するように努めている。また、子どもの羞恥心に配慮し、着替えの際にはパーテーションを用いて対応しており、排泄の介助では1対1で関わるようにしている。			
法人の理念を念頭において保育を実践している			
全職員が虐待防止に関する研修を受講しており、子どもの人権や一人ひとりを尊重した保育について学ぶ機会を設けている。また、職員一人ひとりが法人の理念である「自分らしく生きていける子ども」「子どもたちが本来持っている『生きる力』『一人ひとりの発達と人格を尊重した自分で考える教育』」などを念頭に置きながら保育を実践するように心がけ、日々の保育の中や職員全体会議の中でも定期的に振り返りを行い確認している。個々の生活リズムや発達の違いなどに配慮することに取り組んでいる。			

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化			
評価項目1		手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
	標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
	標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
評価項目2		サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
講評			
業務マニュアルは理念や園の特徴も含め、法人統一のものが整備されている <p>法人として統一した各種のマニュアルを設けており、保育をはじめ各種の園業務の標準化に取り組んでいる。また、各種のマニュアルは事務所に常置され、職員がいつでも見られるようになっている。マニュアルとしては、業務、危機管理、感染症対策、就業制限、不審者対応、虐待対応、除去食対応、実習生、保健業務など、法人の理念やルールのほか、食事や排泄、保健衛生といった保育の基本業務、指導計画の作成方法、事故・ヒヤリハットの対応などの園内の全ての業務に関するマニュアルが整備され、法人で定期的な見直しが行われている。</p>			
園職員全体で、業務の水準を確保することに取り組んでいる <p>園独自の業務手順などの見直しが必要になった際には、職員全体会議において検討し、職員総意のもとに変更することになっている。内容によっては保護者の意見にも耳を傾け、変更内容を分かりやすく伝えることにしている。さらに、職員の意見や提案、子どもの様子などによっても見直しをしている。また、クラス担任以外の園内の各種の業務を円滑に推進することを目的に、毎年「役割分担表」を設けている。内容としては、入園式などの各種の行事、保健衛生、教材、園内備品管理や発注などとなっており、円滑に保育ができるようにしている。</p>			
職員一人ひとりの業務推進について指導・助言する仕組みが整っている <p>職員全体会議では保育に関する基本事項、受けた研修を共有し、各種の業務手順などが職員全体に行き渡るようにしている。また、法人内や外部研修には積極的に参加を促し、職員の資質の向上に努めている。園長研修は年10回、職員研修は全職員を対象に園内研修6講座、選択式研修3講座以上、希望者には随時開催される研修を案内し、受講を促している。職員全体会議で共有を図り、他の職員への啓発につなげている。さらに、園長による個人面談では職員一人ひとりの業務推進について助言・指導する仕組みが整っている。</p>			

